

令和3年度3月定例麻績村教育委員会 会議概要

開催日時 令和4年3月2日(水) 午前9時30分～
開催場所 麻績村地域交流センター 第3・4研修室

出席委員	職務代理	市ノ瀬淳一	委員	小山正文
	委員	宮下温子	委員	小松小百合
出席職員	麻績保育園長	塚原京子	麻績小学校長	佐々木英明
	筑北中学校長	白井伸明	教育長	飯森 力
	教育次長	塚原優仁	主事補	龍頭詩織

1 開会

2 教育長挨拶

①教育長挨拶

3 報告事項

①教育長報告

・近況報告

質疑内容

小山委員:2月21日の桑山の若者住宅ですか、これ子どもいる家庭は何組かいるんですか。

教育長:子どもいる家庭は2家庭かな。ただ小学校、中学校はいない。まだ保育園入るくらいの子かな。これで決定されてきたかまだ通知貰ってないのでわからないですけど、一応その予定で組んでいます。

小山委員:競争率というか、応募は4棟よりもたくさんありましたか。

教育長:ありました。7件かな、ありましたので。遠くは千葉からも申し込みがありました。結構あります。安いですし環境は良いしということだと思いますけど。

小山委員:とりあえずは保育園の子が入ることなんですね。

教育長:はい。村としては少しでも子どもが増えればということでやっていますので。保育園入園するかはわからない。

塚原園長:今問い合わせがありまして、3歳児のお子さんが説明を聞きたいということがありました。

教育長:はい。

②保育園長報告

- ・近況報告

③小学校長報告

- ・近況報告

④中学校長報告

- ・近況報告

質疑内容

小松委員:質問ではないんですけども、保育園の、この間も話題にさせていただいた園だよりで、今回載っているのが本当に一番大事なことじゃないかなと、このことを本当に訴えていきたいというか、当たり前のようなことなんだけれども実はここがすごく大事で、でも意外と生活に忙しがっていると疎かになってしまうところなので、だからここはちょっと本当に繰り返しではないけど伝えていけたらなと思いました。すごく良いことを載せていただいて本当にありがとうございました。それから小学校の、登下校で車での送り迎いで、昔からちょっと麻績はそういうところがあって、ちょっと地域柄とか防犯上とか色々仕方ないと思うんですけども、その分の埋め合わせというか特に冬場なんかは、私なんか生活していても本当にコロナ禍で生活が限られた中で運動不足ということをしみじみ感じていまして、ましてや子どもたちは身体が作られる大事な時期ですので、その足りない分をどうやって補っていくかというところで、考えていかなきゃいけないのかなという感じはします。学校にだけお願いするということじゃなくて、家庭でも考えていかなきゃいけないなと感じます。それと、4月から18歳成人になりますよね。それで筑北中学校は今実際に皆進学するということですか。

臼井校長:今年皆進学です。

小松委員:ですもんね。例えばこれが中学卒業してすぐ就職となると、すぐ社会に出てその2年後18歳になったら、「大人になる」ということの権利をどういうことかということ自分で勝手に勉強しないといけないのか、それともやっぱり教育現場でも18歳、大人になるってどういうことなのかな、どういう権利を得られるのかな、逆にしてはいけない権利とか、そういうところも教育の場で言う機会があった方が良いのか、これここで話すことなのかわかりませんが、ふとちょっとそんなことを考えました。皆進学していけば高校ではそういう勉強ってどうなるんですかね。

佐々木校長:やっているんじゃないかな。

小松委員: 高校でしていくのかな。

臼井校長: そのところは学校の学習指導要領の中で履修したりなんかしていくと、そのところで通るといような流れだと思うんですけど、私が思うのはやっぱりそこにお家の方が生き方というか、総合的な学習の中で自分の生き方を考えていくといようなところがあると思うんですけど、やっぱりそのところはお家の方が何らかのサポート、サポートではないな、自分の子ども育てるから、自分の子どもをこれからどういう風に育てていくかということはお家の方のところだから、そういう促しをやっぱり保育園の頃からというか、それを保小中でやっていくといようなところが大事なところかなと思います。だから、そういう風に教員も色々な生き方とかそういうところはどこかで話しているとは思いますが、ただ授業で何かやるみたいな、成人教育ではないけどなんかそういうのはたぶんないとは思いますが、やっぱり生活していく中で学んでいくとかそういうことかなと私は思います。

小松委員: わかりました。ありがとうございます。

臼井校長: 確かに、でも働き始めれば、働かないのが一番困っちゃって、働き始めればその場所の社会の中で色々な経験をしたりとかしながら「18歳、成人だな」とかって思うかもしれないけど、働かなきゃいけないという訳でもないけど、社会と触れ合わないで成人になっちゃうといのはやっぱり心配なところではあるかなと思います。

小松委員: ありがとうございます。

臼井校長: 別にそんな私がこういう風に言って良いのかわからないけど、確かに18歳ね。でも今20歳だとしてもどういう教育というか、どういう風にやっているかって、意外と子どもたちで自分たちで考えているんじゃないかなと思ったりもするんですけど。

小松委員: 私もすぐに政府のホームページで、18歳になって権利というか、逆にまだ得られない権利というか、改めて確認しちゃって、まあ情報取れば自分でも勉強はできるんですけども、でもやっぱりちょっとそういうことも見据えて、「明日から18歳になったら大人だよ」といようなところといのは見据えてそれもやっていかなきゃいけないのかなと、権利云々に限らずそこまで成長させるための教育もしていかなきゃ、まあ家庭も含めてですけども、という風にちょっと感じたので出していました。ありがとうございます。

小山委員: 質問といつか感想なんですけど、小学校の学校評価アンケート、2ページの下2つの読書と家庭学習のところを見ると、子どもと親の見方がえらく違うのと、特にAの部分子どもはAがかなり多いのに、保護者は子どもの半分くらいしかAという評価していないのと、やっぱりだいぶ違うんだと、感想ですけど。ただAB合計すると、子どもも保護者も同じくらいかなとは思いますが、AとBの区分のところなのかもしれないんですけど。

佐々木校長: まあ一番ズレますよね。やっぱり家庭での様子しか知らない保護者と、子どもたち割と学校のことも含めながらたぶん書いているだろうなって思います。家庭学

習については今年色々な家庭学習週間をずっと通年でやってきているので、お家の方もよく見ていただきながらご理解をいただいたので割合上がったかなと捉えています。まだギャップは大きいです。

小山委員:ありがとうございます。

臼井校長:そこの捉えがやっぱり自分たちの頃というか、まあどこからかわからないんですけど、質より量というか、質は見えないので、本当はもしかしたら10分で良い子というか、ちょっと極端ですけど10分で家庭学習というかそういうところの復習がサーッとできる子と、そうじゃない子がいると思うんですけど、「机に向かって1時間いれば良い」とかそういうお家の方の見方で評価をしてしまうと、「うちの子はそういえば机に向かってないな」「鉛筆持ってないな」「教科書読んでないな」という、おそらく自分の時の教育というか、そういうことで今の子どもたちの評価をされちゃうと、逆に子どもたちが可哀想だなと思います。どれだけ理解しているかというのは見えないんですけど、そこのところのお家の方の勉強に対する見方というか、そういうところは小学校とか中学校で「こうなんです」という風に、「こうなんです」と言っても伝わるかわからないけど、粘り強くやっていかないと子どもたちが可哀想なので。まあやってなきややってないでいけないんだけど、もしかしたら小学校の勉強だけで事は足りている子も中にはいると思うんですよ。そういうところはちゃんと見てあげておかないといけないなと思います。

小山委員:質の問題で、質はどうやって見るんですか。

臼井校長:質は見えないから、それでやっぱりテストの点数ができなきややっぱり親は「勉強していないから1日1時間やれ」とかそういう量の問題になって、部活でもそうだけど、「練習練習」「勉強勉強」といって、そういう流れになっていっちゃうから、それで勉強が嫌になっちゃう子もいたりして、ちょっと答えにならないかもしれないけど、両方共通の理解で、学校は「こうで良い」と思っているけどお家の方は「そうじゃない」と思っているかもしれないので、そこがちょっとコミュニケーション不足かなと思います。

小山委員:それは先ほどの小松さんの成人云々のところでもあったけど、どういう人生というか、ちょっと大げさかもしれないけどどういう進路に向けていくかということにもよるんですよ。

宮下委員:保育園のほうですけれども、オクレンジャーのほうで園長先生より日々発信していただくことがあって、オクレンジャーを登録した当初は保育園での利用する頻度とか必要性みたいなのをちょっとこうご意見有ったと思うんですけども、やっぱり細かなことを配慮していただいて保護者がすぐキャッチできるというような環境が今作ってもらった中で、やっぱり「ありがたいな」と感じる事が2月何度もありまして、保育園でのオクレンジャーというのはすごく「今後も活用していってもらえたら良いんじゃないか」と感じています。小学校と中学校ですけれども、様々な場所でZOOMの使用ということで、2月の今回の参観日も参加させ

ていただいたんですけれども、うちの場合は2クラスを同時に2つの端末で私は参加させていただいていたんですけれども、保護者は家の様子での子どもたち、コロナ禍で今まで以上に目の当たりになっている部分があるんですけれども、学校の様子を対面というか画面越しではあったんですけれども、学習発表という形で見させていただいて、年度始まりの姿とはもう全然違った姿が今回感じられて、すごい成長を感じて、「保護者もコロナ禍で不安なこともあったんですが、安心した保護者は多かったんじゃないかな」と感じました。学年PTAの件ですけれども、それもZOOMで開催ということで、続きで時間を区切ってやらせていただいて、「ZOOMの良さもあるんだな」というのを感じたのが、1年生のクラスでしたけど、それぞれの家庭の様子なんか子どもの様子なんかを1人ずつ発言していくというような流れがあって、自分の子ども以外の子どもの様子だったり学校に不安を持っていることだとか、そういうこともあの場で皆で共有できたというのが「本当に便利だな」と感じましたし、なかなか学校に出向けないお母さん方もZOOMの画面ではしっかりバッチリ参加できていた方もいらっしやったので、「今後も状況によってはZOOMでというのも手なのかな」と感じました。

市ノ瀬職務代理: 中学の先程の吹奏楽部合同バンドの件ですけれども、こんなに数少なくなっちゃったんだなと、5人だけですか。その中でぜひ自分の持っている才能とか興味とか、そういうのをこういう形で伸ばさせていただけるのは本当にありがたいなと思います。ただ私筑北中学校に勤めている時に、練習試合だったかな、保護者の車で移動したときにやっぱり事故があったんですよ。要するに自分の子どもだけじゃなくて他のお子さんを乗せて行くわけですよ。それで事故に遭ってその時に後どうしたかよく覚えがないんですが、それが一番移動に伴って心配なところで、同乗者保険と言いますか、ああいうのも含めて改めてご注意というか、十分留意していただければと思います。

白井校長: そのところが一番心配なところで、お家の方も「一緒に乗っけて行って良いですか」みたいな話があって、そこで行っていただくので、強制というか、「それはダメです」というのは言えないので、そういう良い保険があるのか、でも保険は掛かっているから、同乗者保険があれば良いですか。

市ノ瀬職務代理: 任意だとはいると思うんです。

白井校長: 任意には大体ついている。でも保険あるから良いつて訳でもないですけどね。一応保護者の中で合意形成をしてもらおうかなとは思っているんですけど、それにあたって何か村でちょこっと出してもらえればありがたいかなと、行った人だけが「なんで私が」ということだけにはなっちゃいけないなと、ちょっとあれですけど。

塚原園長: 前に娘が中学の時バレー部で、やっぱり保護者が送り迎えしなきゃいけない時に、確かJAの保険でその日に車を出す人数と違って、本当に何百円くらいで、そこはもうバレー部の保護者会のお金で賄っていたんですけれども、そういうのがあったような気がします。その都度その都度言わなくちゃいけないので大変なんです

けど。

臼井校長:その日だよ。皆ですか。

塚原園長:その日、車出す人です。

臼井校長:車出す人だから、たぶん5人くらいいたということですか。

塚原園長:そうですね。3台くらいで当番でやったんですけど、たまたまその保護者の中にJAの方がいたので、電話1本でやってくれたのでそこは良かったかなと思います。

臼井校長:保険含めてスタートするまで色々ちょっと検討したいと思います。

小山委員:任意保険って色々テレビで通販型のコマーシャルでやっていますけども、一般的な任意保険って結構高いというか、事故起こした経験があるとかで等級があるんですよ。私なんか無事故でずーっときていても年間3、4万くらい掛かるから、結構額大きくなるんですよ。ただ生坂行くとなると一番最短距離で行くと差切峡通ってというところだから、狭いところでやっぱり物損事故で、そんな大きなケガじゃないにしてもちょっとしたケガということは考えられることではあるんですけども。保護者の方に対する説明とかする時に、その保険だけは入っておいていただくということはしょうがないような気もするんですけどね。

教育長:支援策。

臼井校長:お願いします。

教育長:実際には運動部活と同じことですので、吹奏楽の生坂の部分については。運動部のほうにはいくらかガソリン代出たのかな、そこら辺もあるのでそういう支援は一応何とか続けていきたいなと考えています。その他の保険の部分については、早急にちょっと検討させていただきたいかなと思います。今まで聖南中学校までだったからえらいことはなかったんですけど、今度は生坂行くとなると、今の話であった差切峡やなんかちょっと事故の可能性もちょっと出てくる部分がありますので、その保険今園長も言っていたような部分がありますので、それもちょっと調べてみたりして検討していきたいなと思います。一時その部活問題で、問題になった生坂は聖南中学校までバスを出したのかな、これもちょっとたぶんそこから中から苦情が生坂に対して大分あったのであまり表へは出せないんですけども、そこら辺も果たしてできるかどうかということも検討を早急にさせてもらいたいなと思います。できるだけ安全に子どもたちが活動、活躍できるような状況を作っていくほうがベターだと思いますので、ちょっと検討させてください。

臼井校長:お願いになっちゃいますけど、またよろしく願いいたします。

教育長:はい。

4 協議事項

- ① 令和3年度 保・小・中における一貫教育の取り組みについて

⇒保育園長、小学校長、中学校長から報告

- ② 令和4年度 教育委員会主要事業(案)について

⇒修正・追加等を説明

- ③ 令和4年度 社会教育・社会体育事業計画（案）について
⇒内容を確認

5 その他

① 各委員から

- ・小松委員より【保護者からの要望等について】
⇒まん延防止等重点措置適応期間延長のため来年度実施予定

② 事務局から

- ・予算について説明
⇒令和3年度10号補正、令和4年度予算説明、繰り越し等
- ・小中学校のタブレット、モバイルルーターの貸し出しについて
⇒小中学校長と相談して作成後、教育委員確認予定

次回開催日程 4月8日（金）午前9時30分～

6 閉会

